

Economic Trends

発表日：2025年10月10日（金）

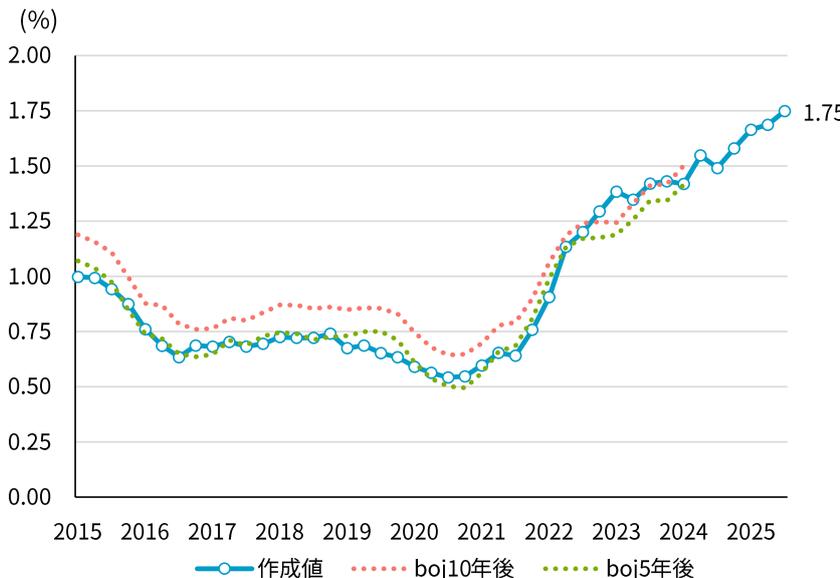
日銀手法に倣った合成予想インフレ率の推計（2025Q3）

～前期から加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 星野 卓也（Tel：050-5474-7497）

資料. 日銀手法に倣った合成予想インフレ率（5年後）の推定値



（注）長田・中澤（2024）に倣って各種予想インフレ率指標の主成分分析を通じて得られた値をもとに作成。データ制約などの観点で簡略化等を行っている。主なものは以下。コンセンサスフォーキャストの値をESPフォーキャスト調査で代用、家計のインフレ率は量的指標（平均値）のみ使用（日銀はカテゴリカルデータを統計的手法で数値変換した値も利用）。日銀の家計予想インフレ率は上下の外れ値除去等を行っているが、個票にアクセスできないため平均値をそのまま利用。この点で作成値は日銀推計に比べて極端な回答の影響を受けやすい。Boj10年後、5年後の値は長田・中澤（2024）の公開データ（2024年Q1まで）。

（出所）日本銀行、日本経済研究センター、Bloomberg、Quickより第一生命経済研究所が作成。

○筆者推定の合成予想インフレ率指標（5年後）は+1.75%に

本日公表された日銀の「生活意識に関するアンケート調査」などに基づき、家計・企業・専門家の予想インフレ率を統合した合成予想インフレ率指標の推定を行った。推定した7-9月期の合成予想インフレ率指標は+1.75%と、前期（1.69%）から上昇率を高めた（資料）。日銀は物価の状況を説明する際に「基調的インフレ率」を度々取り上げている。日銀の説明する「基調的インフレ率」の定義ははっきりしたものではないのだが、それをみるうえで重視しているものの1つと考えられるのが予想インフレ率だ。合成予想インフレ率は家計・企業・専門家の予想インフレ率を複合した指標として、日銀の公表資料でも複数回登場している数字である。

推計値は着々と2%に近づいており、予想インフレ率の上昇を示している。日本銀行は従来から「基調的インフレ率が2%に達していない」との発信を行ってきたが、“2%に近い”くらいの評価はでき

る水準感になってきているとみられる。物価の現状評価に対するトーンにも徐々に変化がみられるかもしれない。

(参考文献)

長田・中澤 (2024) 「期間構造や予測力からみたインフレ予想指標の有用性」日銀レビュー 2024-J-5

西野・山本・北原・永幡 (2016) 「『量的・質的金融緩和』の3年間における予想物価上昇率の変化」日銀レビュー 2016-J-17

大柴 (2024) 「インフレ予想の統計的推定の展開①～合成予想物価上昇率の有用性～」第一生命経済研究所 Economic Trends

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

